

令和8年度 福井県立ろう学校スクールプラン

校訓	自主…自分で考える子 敬愛…思いやりのある子 希望…大きな夢をもつ子
目指す子ども像	・自ら考え、行動する子 ・他者を思いやり、自分を大切にすること ・夢をもち、可能性に挑戦する子
目指す学校像	○安心して学び、笑顔が広がる活気ある学校 ○聴覚障がい教育の拠点となる学校 ○主体的、計画的に協働する学校 ○家庭・地域・関係機関と連携し、信頼される学校
教育目標	・安全安心な学びの環境のもと、主体性と相互尊重を育み、希望をもって未来を切り拓く子どもを育成する。 ・聴覚特性に配慮し、豊かな言語環境と多様なコミュニケーションを保障する。

教育方針	研究テーマ「主体的に課題と向き合い、解決しようとする力を育む聴覚障がい教育 ～聴覚障がいの特性に配慮した支援や言語環境の充実～」	学校業務改善のための取組 ・DX推進による業務の効率化 ・協働と見える化による効率化 ・組織として支え合うチームづくり
	<ol style="list-style-type: none"> 言語力・コミュニケーション力の育成 一人一人の実態やニーズに応じた言語力・多様な手段を活用したコミュニケーション力の育成 主体的・協働的な学びの推進 自ら考え主体的に学ぶ授業づくり、地域の資源や人材を活用した学習活動の推進 多様な状態像への対応力向上 重複障がいや発達障がい等を併せ有する幼児児童生徒への理解と対応力の向上 専門性・指導力の向上 OJTによる専門性の継承、校内専門研修の内容・方法等の検討や工夫、ICTの活用 学校内外の聴覚障がい児に対する切れ目ない支援の推進 校内および関係機関との連携により将来を見据えた個々の学びと支援をつなぐ 	人権教育の推進 ・自己理解・他者理解を促す支援による多様性の尊重 ・教職員の人権意識の向上を基盤としたいじめのない安心安全な学校づくり

重点目標

教育課程・学習支援	幼児児童生徒支援	進路支援	安全・美化・保健支援	家庭・地域との協働	教育相談・センター的機能による支援連携	学校づくり
教務・進路部、図書研究部	教務・進路部、指導・保健部、舎務部	教務・進路部	指導・保健部	教務・進路部	教育支援部	学校管理・運営
・子どもの実態に応じた教育課程の編成と見直しの推進 ・授業検討と相互参観による授業改善 ・手話、視覚情報、ICTを生かした情報保障	・校内支援体制による継続的・きめ細やかな支援の充実 ・行事、児童会・生徒会活動、及び日常の話し合い活動による自己表現・協働の育成	・将来を見通したキャリア形成と、個性に応じた進路支援の充実	・安全・衛生・美化が行き届いた学習生活環境の整備 ・健康教育と予防的取組の計画的推進 ・防災・防犯・感染症対策の徹底	・家庭・学校・地域が信頼で結ばれた協働体制の確立 ・保護者と学校が双方向で学びを支える連絡・相談体制の定着	・関係機関連携による専門的支援の切れ目ない支援体制の充実 ・校外に在籍する難聴児への具体的な分かりやすい支援の充実 ・校内に在籍する幼児児童生徒の難聴理解と具体的支援方法の共有	・教職員の主体性に基づく学校運営の推進 ・学部・分掌を越えた協働による組織力の向上 ・校内研修・OJTを核とした専門性の継承と人材育成

具体的取組

<p>・学年段階・個別実態に応じて年間指導計画を整え、教科と学校行事を関連付け学びのつながりと深まりを図る。</p> <p>目標A【年間指導計画に沿って様々な行事と学習を関連付け、学びのつながりを意識することができた。教員80%以上】</p> <p>目標B【授業が楽しく、もっと学びたい。児童生徒85%以上】</p> <p>・授業検討会・学部横断の相互参観・助言の計画的実施を通して授業を改善する。</p> <p>目標A【授業改善（授業検討会・相互参観）を通して、気付きや改善点を授業に生かしている。教員85%以上】</p> <p>・手話・文字・板書・ICT活用の標準化を進める。</p> <p>目標A【手話・文字・画像・ICT等を組み合わせ、情報保障を意識した授業を実践している。教員90%以上】</p> <p>目標B【手話・文字・画像・ICTなどの情報が見やすく分かりやすい。※幼児児童生徒85%以上】</p> <p>※幼児については保護者</p>	<p>・定期的な情報交換により、幼児児童生徒の実態把握と支援の統一を図る。</p> <p>目標A【校務部・学部で共有した情報をもとに、日常の指導・支援方法を調整している。教員90%以上】</p> <p>・行事や児童会・生徒会活動、及び日常の学級・寄宿舎での話し合い活動で、幼児児童生徒が主体的に表現し協働する場として充実を図る。</p> <p>目標A【幼児児童生徒が主体的に話し合うことができる場を計画的に設定し、一人ひとりに応じた支援をすることができた。教員90%以上】</p> <p>目標B【活動の中で、自分の気持ちや意見を伝え、誰とも協力して活動することができた。幼児児童生徒80%以上】</p> <p>※幼児については保護者</p>	<p>・幼稚部から高等部までの体系的なキャリア教育を実施する。</p> <p>・個別化された進路指導を計画的に推進する。</p> <p>・面談、見学、実習等を通じた体験的活動を充実させ、将来を見通した支援を行う。</p> <p>・地域資源を活用した学習活動や進路支援を充実させる。</p> <p>目標A【幼稚部～高等部までのキャリア教育の系統性を踏まえた指導を実践している。教員90%以上】</p> <p>目標B【面談・見学・実習などの体験活動を通して進路について考える機会が増えたと感じる。児童生徒85%以上】</p> <p>目標B【子どもが自分の興味や得意なこと、将来やってみたいこと等を話すようになった。保護者80%以上】</p>	<p>・校内の安全・衛生・美化に関する定期的な点検と改善を行う。</p> <p>・生活リズム、食育、心身の健康に関する健康教育を実施する。</p> <p>・防災・防犯・感染症対策の計画的な実施と体制の整備を図る。</p> <p>・危機管理マニュアルの整備・見直しと非常時対応の共通理解を図る。</p> <p>目標A【安全・衛生、健康教育、防災・防犯、危機管理等の計画を理解し、日常の指導や訓練に反映している。教員90%以上】</p> <p>目標B【学校生活における安全性や衛生面・非常時の対応について分かる・守れている。※幼児児童生徒80%以上】</p> <p>目標B【学校の安全管理・衛生環境・危機対応に安心感がある。保護者85%以上】</p> <p>※幼児については保護者</p>	<p>・PTAと連携し、学校教育活動の支援や地域とのつながりづくりを推進する。</p> <p>・保護者との個別懇談や日常的な情報共有を行う。</p> <p>目標A【PTA・保護者・関係機関との連携が幼児児童生徒の支援に有効である。教員90%以上】</p> <p>目標B【学校との連絡・相談体制に安心感がある。保護者80%以上】</p>	<p>・医療・市町教育委員会、保護者等と連携し、難聴児に特化した支援や教育相談活動を実施する。</p> <p>・難聴児の困り感について学べる研修動画を作成し、在籍校および関係機関の理解啓発を図る。</p> <p>目標A【関係機関・保護者によって有効な教育相談活動、支援や情報を提供する。関係機関・保護者85%以上】</p>	<p>・校務分掌ごとの役割と到達目標を明確にし、前期・後期の点検を通して主体的な学校運営を進める。</p> <p>・小規模な試行・実践と振り返りを積み重ね、教職員が自ら改善や提案に取り組み仕組みを作る。</p> <p>・教職員同士が日常的に実践を共有し、互いに学び合うことで、若手の育成とベテラン・若手の専門性向上を図る。</p> <p>目標A【分掌の役割・到達目標を理解し、点検結果を業務改善に生かしている。教員90%以上】</p> <p>目標A【学校運営への参画実感が高まった。教員85%以上】</p>
--	--	--	--	---	---	---